

宝暦 5(1755)年上井上村に生きた人々

尾崎 泰弘

上井上村(現在の大字井上の一部)に、近世(ほぼ江戸時代に該当)中期にあたる宝暦 5(1755)年の宗門人別改帳が残されています(その一部は『東吾野郷土誌』にも掲載されています)。宗門人別改帳とは、近世の村で、家ごとに戸主を筆頭に家族・奉公人・下人などの名前と年齢を記し、切支丹でないことの証明として各人ごとに檀那寺の印が捺されている帳面です。内容には本籍人口を記したものと現住人口を記したものとがあり、この上井上村の場合は、奉公に出たり、他家で下男・下女として働いている者、あるいは江戸で商売をしている者なども記されていることから、きちんと届出をして村を出ている者、すなわち村の出身者も含んでいること(つまり本籍人口を記載)がわかります。

表 宝暦 5 年・上井上村の寺院

寺院名	宗派	本寺	所在	檀家数
興徳寺	臨済宗	建長寺	東組	70
地藏院	新義真言宗	東明寺(虎秀村)	西組	5
福昌寺	臨済宗	興徳寺	中峯	7
常蓮寺	新義真言宗	聖天院(新堀村)	中峯	6
常光寺	新義真言宗	聖天院(新堀村)	久野本	14
西光寺	臨済宗	興徳寺	(不明)	1



昭和 30(1955)年の大字井上
鎌倉橋から高麗川上流方向をのぞむ

ここには住職のいる 4 つの寺を含む 111 軒、401 人が記載されています。令和 5 年 1 月現在の大字井上の人口は 386 人ですから、ほぼ変わっていないことになります。内訳は男性 210 人、女性 191 人、僧 4 人、道心(仏道修行をしている人)3 人で、医師はいません。全体の平均年齢は 35.4 歳、最高齢はこの帳面を作成した宗右衛門(29 歳)の祖母 88 歳です。意外と高齢ですね。この宗門人別帳には、嫁や娘の名前は記されていますが、なぜか世帯主の妻や母の名前は記されていません。1 世帯あたりの平均人数は 3.6 人、最も多いのは又左衛門家の 15 人で、下男 5 人、下女 3 人が含まれます。また 111 軒のうち 17 軒が馬を持っています。恐らく高麗川上流域から飯能などの町へ荷物を運搬するために使われたものと考えられ、当時の流通の盛んなさまをうかがうことができます。

村には、下の表にあるとおり 6 つの寺がありました。このうち常蓮寺と西光寺は既にこの段階で僧のいない「無住」の寺でした。このほか 3 軒は虎秀村にあった東明寺が旦那寺になっています。明治になって無住の寺を始め多くが廃寺となり、現在残っているのは興徳寺だけです。

今回は紙幅の関係から全体の傾向を述べるに留めましたが、他の史料と付き合わせることでもっといろいろな事がわかります。宗門人別改帳は江戸時代の村を知るための基礎となる重要な古文書なのです。

【参考文献】

東吾野郷土研究会『東吾野郷土誌』昭和 45(1970)年 8 月